

知っておきたい神葬祭のマナー

神葬祭には、仏式の葬儀とは異なる独自のマナーがあります。突然の訃報に動揺しないよう、基本的なマナーを事前に理解しておくことが大切です。

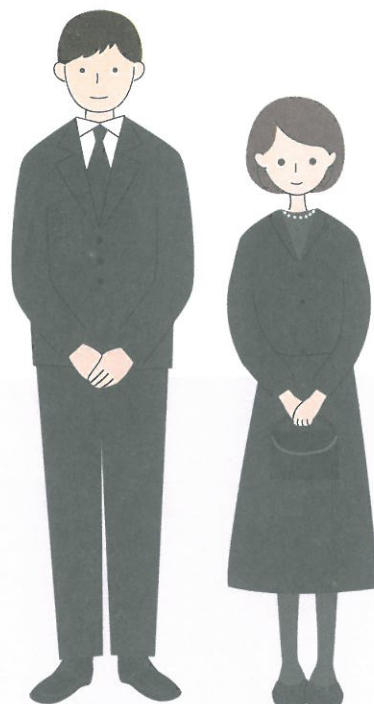
神式の葬儀では、通夜祭や葬場祭（告別式）、霊前祭、年祭などの儀式が執り行われます。参列時の服装や作法については、以下の内容を参考にしてください。

服装

通夜祭…急いで弔問に訪れたという気持ちを表すために喪服ではなく、地味な色の平服（スーツ）の着用が本来のマナーですが、告別式に参列できず通夜祭のみの場合は喪服を着用することもあります。

葬場祭（告別式）…喪服で参列しましょう。

霊前祭・年祭…一年祭までは喪服の着用が基本ですが、それ以降は地味な色の平服を着用しましょう。



喪服

男性：略礼服、色無地の羽織袴など。
女性：黒のワンピースやスーツ、黒無地の和装など。
子供：制服、もしくは白地のシャツに黒・紺・グレーなどのズボンやスカート。

ネクタイや靴やバッグは黒のものを着用します。数珠は使用しません。

お包み

白黒の水引を使用し、表書きには「玉串料」または「御霊前」と書きます。たたみ方は、上側の折り返しを上に乗ねます。これは、悲しみで目を伏せた状態を表しています。また、年祭に参列する際のお包みも、「玉串料」と書きます。なお、蓮の絵のついた袋は仏式用ですので避けましょう。



玉串拝礼の作法

1 神職から玉串を両手で受け取ります。右手で玉串の枝元を上から持ち、左手で葉の部分を下から支えるように持ちます。



枝元を神前に向ける

2 玉串を置く台の三歩手前まで進み小さく一礼し、その後、台の前まで進んで深く礼をします。

3 玉串を時計回りに回し葉先を立てたら、祈念をこめます。枝元を御神前に向けて玉串を静かに置きます。

4 二拝（二回おじぎ）し、忍び手（音がしないように手を打つ）で二回拍手をします。最後に一拝して下がります。



手水の作法

葬儀場に入る前に、身を清めるために行う神道の儀式です。ひしゃくで水をすくい、左手、右手にかけた後、口をすすぎます。最後に左手をもう一度清め、口と手を拭きます。



神社本庁のHPで「手水」や「玉串拝礼」の詳しい作法を、動画とともに紹介しています。



手を打つ時に音を出さない



真弓神社祖霊殿



諸御祈願・交通安全・車祓・厄除・清祓い
神葬祭・年忌祭・永代祭祀(霊璽)祖霊社
予約申込み先

真弓神社社務所

313-0022

茨城県常陸太田市真弓町2255番地

電話 0294-74-2803 FAX 0294-32-5522

神葬祭についての詳細は、神社本庁のホームページもご覧ください。



神社本庁

(<https://www.jinjahoncho.or.jp>)

令和7年4月初版 発行／神社本庁

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目1番2号